

旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会 第1回分科会（須高地区） 会議録（概要）

日時 令和元年(2019)年8月6日 14:00～16:45

場所 須坂市役所 305 会議室

1 開 会

須高地区関係委員 16 人（重複 1 人含む。）中、欠席：市村良三委員、桜井昌季委員、藤澤一彦委員

2 議 事

会長：

地域のため、将来の子どもたちのために、どう高校再編を考えていくか、将来像を考えていくかが重要です。今日はそれぞれの高等学校の関係者から意見をお伺いいたします。委員の皆様には、遠慮なくお聞きいただきたいと思います。なお、本日の会議は非公開とさせていただきます。

(1) 高等学校関係者からの意見聴取

① 須坂東高等学校

- ・「私たちの高校だけは残してくれ」と考えている同窓生は少ないのではないかと思います。それよりも、どういう形で再編されていくのかということに関心があります。子どもたちも夢を持てる、大人も夢を持てる、そんな高校にしていただきたい。
- ・（再編するとしても）同じ須坂市内で一緒になった方が自然な形かなと思っています。その際、どちらかがどちらかを吸収するとかではなく、全く新しい、未来に向けた高校にしていただきたい。
- ・東高の女子高時代を含めた長い歴史の中で培ってきた、音楽、裁縫、芸術と言ったような特徴を生かしていけることが望ましい。
- ・須坂東高校は、学びの在り方として、基礎学力を大事にしてきた。それは大事にしていきたい。
- ・先日の説明会で感じたことですが、新しい時代にふさわしい大規模な学校を作る、何校かが一緒になる高校の再編成を考える中で、一人ひとりの人材を見ていくことが手薄にならないか。いろいろな高校が一つになるので

あれば、例えば進学コースがあったり、家庭科を充実させるとか技術系を活かすとかいうような、普通科の中であっても芸術方面も大事にしていこうというような人材育成ができないか。大規模な学校を作りあげていくという中には、そういったことも含めていただきたい。

- ・きめ細かな進路、学びのコースがあるような学校にしていきたい。色々なコースに分かれて、学べることを拡げていっていただきたい。
- ・(再編となれば) 進学や就職を考えている生徒は少なからず動揺する。生徒の声を大事にしてほしい。
- ・これだけ生徒数が減る中で、このまま残そうというのは無理があるということは皆さん理解されている。
- ・須坂東高は、大学や専門学校に進学する人も含め、地元に残って地元で尽くす生徒が多い。そういう人材を大事に育成する方法も考えてほしい。

② 須坂創成高等学校

- ・須坂創成高校は、須坂商業高校と須坂園芸高校が統合してスタートした学校です。統合に際しては、同窓生から様々なご意見をいただいて、大変頭を悩ませた経験があります。しかしながら私どもは、この地域、子どもたちの将来を考えて、少子化が避けられない中、先を見て、子どもたちのため、そして地域のため、社会のためを考えて、積極的に統合を進めてきました。
- ・創成高校の課題研究発表会では、農業科、商業科、工業科の生徒が、のびのびと自分の将来の在り方、社会貢献の在り方等を考えながら、課題を探究し、発表している。素晴らしいことだと思っています。これからの社会はそうでなければいけないと思っています。
- ・学校で自分は何を学び、どういう人間になるんだ、社会にどう貢献できるんだ、という考え方を生徒に伝えたい。
- ・生徒数が激減するという状況の中では、学校のバランスを考えなければいけないと思う。
- ・将来像を考える協議会には、一番に子どもたちのため、そして、それぞれの地域にはどういう高校が必要なのかをよく考えていただきたい。
- ・農業・商業・工業で3・3・1クラスある。将来、中学の卒業生が減る中で、これを維持するのは難しいのではないかと感じている。

③ 須坂高等学校

- ・自由な校風の中で、魅力的な、生徒に選ばれる学校、進学校としての須坂

高校を存続したい。

- ・北信地域の中で、須坂高校なりの在り方を持って進んでいくことで、将来、この地域にとって大切な人材を育てる力になると思っている。
- ・地域の同窓会においても、須坂中学の校風が息づき、保たれている。特に中野地域の場合は、企業のトップとして活躍している方が多く、地域の産業を支えてきている。中野地域から須坂高校を目指す生徒も多い。ぜひ伝統を守り存続していただきたい。
- ・山ノ内町から通学していますが、大学に行ける進学校として、通学時間も考慮すると通えるのは須坂高校が限界。それは中野の友人も同じ。大学進学後、地域に戻って地域の活性化に寄与するためにも、こうした学校が存続することが必要だと思います。
- ・中野も山ノ内も、上位層の子どもたちは長野市に出たがっています。それを須坂高校で止められるか。教育に限らず産業等においても長野市に吸収されてしまうと言うのが、須坂市の一番の課題ではないのか。須坂市の存在感を示していくためにも進学校は必要で、須坂高校はその使命を担っている。何とかこの地域に進学校を残して、医者も弁護士も、地域から出せる環境を残す必要があると思っています。
- ・信州グローバルハイスクールに選ばれたことを機会に、生徒・教師一丸となって取り組んでいる。長野市に吸い取られるのではなく、逆に須坂に吸い寄せる力になればと考えており、須坂高校としてのアイデンティティを持っていければと思っています。

(2) 分科会協議

① 意見聴取内容の確認 ② 意見交換

- ・進学校を残す方法論として、近隣の普通高校を単に合併・統合することで、素晴らしい学校ができるとは思えません。何か特徴がないと、長野市にどんどん（子どもたちが）行ってしまうと思います。
- ・私立高校は進学でも部活動でも実績を出しているのではないか。進学校の中にスポーツ中心のクラスを作るなど、公立では難しいのでしょうか。
- ・中学校の延長線上に高校があるのか、高校では違う世界が開けるのか。違う世界が開ける高校を目指したい。自ら自分の進路を選んでいく中で、ドアを開けたらドアを開けた人が手に入れられる何かがないといけない。ただ高校を存続するために、誰でもいいですよと言う形では、中学校の延長でしかないのではないか。

- ・ 公立も私学も越えた、新しい高校を考えていく時期に来ている。
- ・ 今は自分の成績を見て、自分の進路は自分で決める時代になっている。
- ・ 例えば、6クラスの内1クラスだけ進学コースを作ってもうまくいかないことが多いというようなことを、皆で共有しながら動いていかないと立ち遅れてしまう。外からも魅力ある学校にしていく必要がある。
- ・ 東高の方は、色々なカラーのある、アピールしやすい学校を求めているんじゃないかと思いました。
- ・ 「自由」は信州教育の素晴らしいところ。しかし、いつまでもこの形のままでいたのでは、学力的にも先細りになっていくのではないか。
- ・ 協議会でどんな結論に持っていくのか、大変難しいと思いました。
- ・ どなたも再編せざるを得ないことは分かっているのではないか。そんな中で、須坂高校だけこのまま維持すると言うのは難しい話だと思います。
- ・ 創成高校も東高も、だれでも受け入れて一緒にやっというイメージ。そうでないのは須坂高校。
- ・ 地域に残って地域の産業発展に尽くしてくれる高校になってもらいたいと思う一方、都会の大学へ行ってほしいという、悩ましいところもある。
- ・ 創成高校は、存立意義、存在価値が明確で良いが、普通高校をどうやって残すのか、どういう意義があるのかを考える必要がある。
- ・ 都会の子どもは、中学受験、中高一貫校受験のために頑張っている。長野や松本でもそういう流れになっていくのではないか。須坂高校を残すための方策をどうするかということだと思います。
- ・ 3校とも特色をアピールしようとしていた。特色の意味を深めることが必要だと思います。各高校も、私たちも、高校の特色を求めていかないといけない。
- ・ 地域で育った子どもたちが、地域で生活することが大事。そのために選択肢を作ることが大事。信州グローバルハイスクールも、外に出ていく子どもたちを育てるのか。それともここにおいて世界に発信する子どもたちを育てるのか。こちらが本来の在り方ではないのか。
- ・ 県教委としてどうするのかと言う原案を、私たちも共有していた方が良いのではないか。それについて、この地域として本当にそれで良いのかと言うことを議論した方が良いのではないのでしょうか。

3 閉 会